

京都大学

生物資源経済研究

No. 2

1996年12月

-
- 農学の特質と方法 祖田 修 (1)
- 農業経営発展と投資・資金の理論
—経営発展における投資と資金の位置づけ— 稲本 志良 (39)
- 近年におけるわが国農業地域の地域的差異の
推移とその要因 武部 隆 (55)
- 野菜価格安定制度の計量的分析方法に関する理論的考察
—京都府「野菜経営安定資金制度」の
運用改善を目指して— 小田 滋晃 (77)
- 供給側オプション価格とその計測法 浅野 耕太 (97)
- 和歌山県龍神村森林組合の事業展開と
林業労働者後継対策 大田伊久雄 (107)
- 林産物貿易の拡大とアメリカ木材企業 村寫 由直 (129)
- アメリカ・カリフォルニア州における農地利用と農地保全
—分析 (1) 取組体制とそのもとの活動の現状と課題— 熊谷 宏 (147)
- インドネシアにおける食糧増産計画と環境資源保全型農法
—ビマス・インマス計画のもとの天敵利用による
総合防除導入の成果と問題点— 加賀爪 優 (161)
- 途上国の青果物市場の制度分析
—インドネシア・タイを事例として— 浅見 淳之 (177)
- ベトナムの農業政策・食糧需給の展開過程と将来展望 辻井 博 (193)
-

「生物資源経済研究」規程

1. 編集要領

(1) 執筆者

生物資源経済学専攻教官とする。なお編集委員会で特に認めたものも執筆できる。

(2) 発行回数と別刷り

当面年1回の発行とする。別刷りは各原稿当たり20部まで無料で著者に贈呈、それ以上は著者の実費負担とする。

(3) 原稿の採否の決定

原稿の採否の決定は編集委員会が行う。

(4) 著者校正

著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

2. 執筆要領

(1) 原稿の種類は論文と研究ノートの2種とし、著者は原稿にそれがどの種類に属するかを明記する。

(2) 原稿の長さを含め、和文の場合は横書き400字詰めA4原稿用紙で、50枚以内とする。英文の場合図表を含め、A4用紙にダブル・スペース(28行、1行10-15単語)で、30枚以内とする。和文の場合英文サマリー(300単語以内)と英文題名を、英文の場合和文サマリー(800字以内)と和文題名を投稿と同時に提出する。原稿はコピーを2部作成し合計3部、編集委員長ないし副委員長に完成原稿で提出する。

(3) ワードで執筆の場合は、A4版用紙に40×40字で横書き印刷した原稿とテキスト・ファイル形式でセーブした3.5インチ・フロッピー(著者名、論文テーマ、ファイル名、使用アプリケーション・ソフト名、使用パソコン・ワープロ機名を表記したもの)1枚を提出する。

(4) 特殊な専門用語・学術用語の他は原則として新かなづかい・常用漢字を使用する。

(5) 節項表示は

第1節, (1), 1), a) のようにする。

(6) 単位は%, kg, haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。

(7) 図表

1) 加工: 分かりやすいように加工し、刷り上がりを考慮して縮約に努める。

2) 用紙: 図は上質白紙を使用し、トレースするかレーザー・プリンターで印刷したものを提出する。

3) 図表題: 各論文ごとに各図表の上に、第1表, 第2表, ……、第1図, 第2図, ……のように番号を順番に付け、図表題を簡潔に付ける。各図表の下に出典ないし参考文献と、必要なら注を付ける。

4) 位置表示: 編集作業をスムーズにするため原稿の右マージンに図表の入る位置を示す。

(8) 注

1) 和文原稿の場合、本文内の関係箇所に(注1), (注2), ……と表記する。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各論文の末尾にまとめて記述する。

2) 英文原稿の場合、本文内の関係箇所に片括弧で1), 2), ……と肩書きする。なお、原稿の右マージンに注の位置を示す。全部の注を各原稿の末尾にまとめて記述する。

(9) 引用文献

引用文献を別記する場合は和文と欧文別にまとめ、和文は著者姓のアイウエオ順、欧文は著者姓のアルファベット順に下記例に従って、() 内に文献番号を順に付けて、注の後に表記する。また、本文中の引用方法は次の例のようにする。 例: 著者姓(文献番号)

引用文献

- (1) 並木正吉「農業保護の理由」『農業と経済』第51巻第11号, 25-35頁, 1985年10月。
- (2) 掘田忠夫「米の消費・流通と寡占競争市場」(亀谷編著『アメリカ米産業の素顔』, 富民協会, 1988年刊所収)。
- (3) マックス・ウェーバー, 阿部行蔵訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の「精神」』, 河出書房, 1965年。
- (4) 増井幸夫「農村労働市場の計量分析」, 大明堂, 1995年2月。
- (5) 南 亮進著『日本の経済発展』, 東洋経済新報社, 1981年12月。
- (6) Bank of Thailand, *Quarterly Bulletin*, Vol.24 No.1, March 1984.
- (7) Farrell, J., J.C. Ingram and J.M. Keynes, "Information and the Coase Theorem", *Economic Perspective*, Vol.1, No.2, 25-35 pp., Fall 1987.
- (8) Geertz, Clifford, *Agricultural Involvement*, Berkeley: University of California Press, 1966.
- (9) U.S.D.A., E.R.S., *Rice, Situation and Outlook Report*, RS-53, September 1989.

付記

- (1) 本規定の改定は生物資源経済学専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は1995年9月14日より実施する。

執筆紹介 (掲載順)

祖田 修	農学原論分野
稲本 志良	経営情報会計学分野
武部 隆	農業組織経営学分野
小田 滋晃	経営情報会計学分野
浅野 耕太	食料・環境政策学分野
大田伊久雄	森林・林業政策学分野
村寫 由直	森林・林業政策学分野
熊谷 宏	地域環境資源経済学分野
加賀爪 優	地域環境資源経済学分野
浅見 淳之	国際農村発展論分野
辻井 博	国際農村発展論分野

『生物資源経済研究』第2号の編集を終えて

『生物資源経済研究』第2号の編集が終わり入札の段階になりました。第2号は予想どおり創刊号より大幅に投稿者が増えましたことは、皆様の同『紀要』に対するご協力とご理解のたまものと思います。第2号が出版できて何とか軌道の上を走り出したかなという感じがして参りました。

外国の研究機関へも多数交換のため寄贈しております。今回は英文ないしその他外国語の論文がなくこの点少し残念です。第3号では外国語の論文もご提出下さい。『生物資源経済研究』の寄贈先は国内と外国の研究機関ですが、これら寄贈先をより適切に配分することは、創刊号編集後記で示しました、本『紀要』の出版目的の達成するためにも、交換により国内外の研究機関の出版物を獲得し、研究交流を進めるためにも重要であると考えられます。寄贈先は未だ完全ではないと考えられますので、生物資源経済学専攻の教官の諸兄からの修正提案をお願いいたします。寄贈先リストの最新版は司書室にありますので、ご検討ください。

第3号へのご協力もよろしくお願い申し上げます。

平成8年11月13日
編集委員長 辻井 博

『生物資源経済研究』第2号編集委員 (五十音順)

浅野 耕太(副委員長)	足立 芳裕	小田 滋晃	加賀爪 優
崎山 政毅	武部 隆	辻井 博(委員長)	森 義昭

京都大学 生物資源経済研究 第2号

1996年12月25日 印刷

1996年12月25日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻
生物資源経済研究 編集委員会
電話 075-753-6290

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻
〒606-01 京都市左京区北白川追分町

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の「生物資源経済研究」を専攻紀要として刊行いたしました。
御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

生物資源経済研究 第2号

1部

1

0

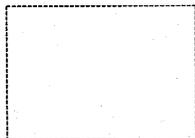
6

0

6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科
生物資源経済学専攻司書室 行



受領書

生物資源経済研究 第2号

1部

上記刊行物受領いたしました。

平成 年 月 日

住 所

機関名

氏 名

The Natural Resource Economic Review

Kyoto University

No. 2
December 1996

- Characteristics of Agricultural Sciences and Its Method..... Osamu SODA (1)
- The Theory of Investment and Financial Management
in Farm Firm Development..... Shiro INAMOTO (39)
- A Transition of Regional Differences among Agricultural Areas
and Its Causes in Recent Years Takashi TAKEBE (55)
- A Theoretical Investigation of the Quantitative Method for Analyzing
the Vegetable Price Stabilization Policies — Program: A Step towards
the Improvement of a Program Enforced by Kyoto Prefecture
Government Shigeaki ODA (77)
- Supply-Side Option Price and Its Measurement Kota ASANO (97)
- Expansion of Business Activities and Measures of Recruiting
Forestry Workers in Ryujin Village Forestry Cooperative..... Ikuo OTA (107)
- Increasing Trade of Forest Products and Big Wood-Based Firms
in The United States Yoshinao MURASHIMA (129)
- Farmland Use and Farmland Conservation in California, U.S.A:
Analysis 1 — The Existing Condition and the Issues — ... Hiroshi KUMAGAI (147)
- Food Supply Intensification Scheme and Environment Friendly
Farming in Indonesia — Results and Constraints for IPM under
the BIMAS, IMMAS, and INSUS Program — Masaru KAGATUME (161)
- Institutional Analysis of Market of Fruits and Vegetables
in Developing Countries
— In the Case of Indonesia and Thailand — Atsuyuki ASAMI (177)
- Development of Agricultural Policy and Food Demand and Supply
in Vietnam and Their Future Prospects Hiroshi TSUJII (193)

**Natural Resource Economics Division
Graduate School of Agriculture
Kyoto University**